

---

+。・ヒマつぶ詩・。+

悠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

+。・ヒマつぶ詩・。+

### 【コード】

N2410I

### 【作者名】

悠

### 【あらすじ】

友達と仲悪くなった時に書いた詩です；

＝old&now＝

かつては心ゆるして笑い合った人も  
今は探り合いで鍵をしてんだ  
帰り道楽しくてしょうがなくて  
歩く影の靴音はゆっくりで

いつまでも喋ってたいと願っても  
夜明けは待つてくれなくて

電話もメールもまるで恋人みたいに  
嬉しいあの音を心待ちにしてたんだ

いつからか僕の視界に入った君を  
何となく奥を見ながら素通りして

君は僕が起こした小さな風を  
そっけなく受け止めてそのまま手放す

きつとアレから僕の世界は  
崩れて腐っていつて  
きつとココからもう  
スタートなんて出来ないだろう

僕等はまだ偽り同士で

線をひいて ココには来るなと言う

僕等はずっと未完成で

最初から 完成の言葉はなかったのだから

今の君の居場所で そこには何が見えるの？

僕は違う場所で まだ途方に暮れてるんだ

君の歩く足音はわかりやすくて

前に居る僕に近づこうと音が早くなった

見慣れ飽きた教科書にラクガキをして

君の肩が揺れてたのを覚えてる

放課後は夕日も呆れるくらい

1分で終わりそうな話が日を暮れさせた

何度僕の話に笑ってくれたのかな

今も思い出せば笑っちゃうんだ

いつから自分の声を届けなくなった

何となく届かない事は知ってた気がする

君は僕の声が聞こえてくると

そっけなく返事をしてそのまま歩く

きっとアレから僕の世界は  
何かを失くして踏みつぶして  
きっとココからもう

見つけることなど出来ないだろう

僕等はまだ見えない存在で

聞こえない もう知らないと言う

僕等はずっと交わることなく

最初から 行く道が違うのだから当然だよ

今の君の居場所は 僕には行けないの？

僕は違う場所で 時々遠くで思うんだ

違う何かと混ざり合うことなんて

違う何かと心通じ合うことなんて

とうてい僕には理解も出来なさそうだ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2410i/>

---

+。・ヒマつぶ詩・。+

2011年1月2日02時32分発行